

「うつくしまエゴマ豚」の生産に飼料用米を利用できる

福島県農業総合センター 畜産研究所肉畜科

部門名 畜産－豚－畜産栄養

担当者 京谷隆侍・門屋義勝・佐藤亮一

I 新技術の解説

1 要旨

輸入飼料への依存度が低い養豚経営を実現するため、慣行のトウモロコシ主体飼料(トウモロコシ70%)の代わりに穀米配合飼料(トウモロコシ40%、穀米30%)を用いても、従来と同等の「うつくしまエゴマ豚」を生産できる。

- (1) 対照区とエゴマ区にはトウモロコシ主体飼料を、穀米区と穀米エゴマ区には穀米配合飼料を給与した。
- (2) 一日増体量は試験区間に差はなく、いずれも 1.00kg 以上と良好であった(表1)。
- (3) 枝肉ならびに肉質成績のいずれの項目も、エゴマ添加穀米配合飼料の給与の影響はなかった(表2、表3)。
- (4) ロース肉の α -リノレン酸割合は、エゴマ区と穀米エゴマ区ともに高くなった(図1)。

2 期待される効果

- (1) 安定した「うつくしまエゴマ豚」生産体制を構築できる。
- (2) 飼料用米の給与水準を明らかにすることにより、飼料用米の利用が進む。

3 適用範囲

福島県内の「うつくしまエゴマ豚」生産農家

4 普及上の留意点

- (1) 穀米は、粒径5mm 以下に粉碎することが望ましい。
- (2) 穀米はトウモロコシや玄米に比べて粗繊維含量が高く、可消化養分総量(TDN)と粗タンパク質含量が低いため、配合割合に注意する。

II 具体的データ等

表1 一日増体量			(kg/日)
対照区	糊米区	エコマ区	糊米 エコマ区
1.06	1.10	1.07	1.09

表2 枝肉成績

	対照区	糊米区	エコマ区	糊米 エコマ区
枝肉重量(kg)	75.8	76.0	77.7	77.5
枝肉歩留まり(%)	65.6 ^{ab}	64.5 ^a	66.4 ^b	66.0 ^{ab}
と体長(cm)	92.2	93.5	92.8	91.7
と体幅(cm)	36.3	36.4	36.1	36.0
ロース芯断面積(cm ²)	25.0	24.0	23.7	24.0
背脂肪厚(cm)	2.1 ^{ab}	1.9 ^a	2.3 ^b	2.2 ^{ab}
上物率	2/5	2/5	3/5	2/5

注 a,b:異符号間に有意差あり(P<0.05)

表3 ロース肉の肉質成績

	対照区	糊米区	エコマ区	糊米 エコマ区
肉色				
L* (白色度)	44.2	42.8	45.3	42.5
a* (赤色度)	3.7	4.3	4.0	3.4
b* (黄色度)	6.4	6.5	7.0	5.5
加熱損失(%)	21.7	21.2	21.3	21.9
剪断力値(kg)	4.4	4.3	4.0	4.7
筋肉内脂肪含量(%)	4.2	3.5	3.7	3.6

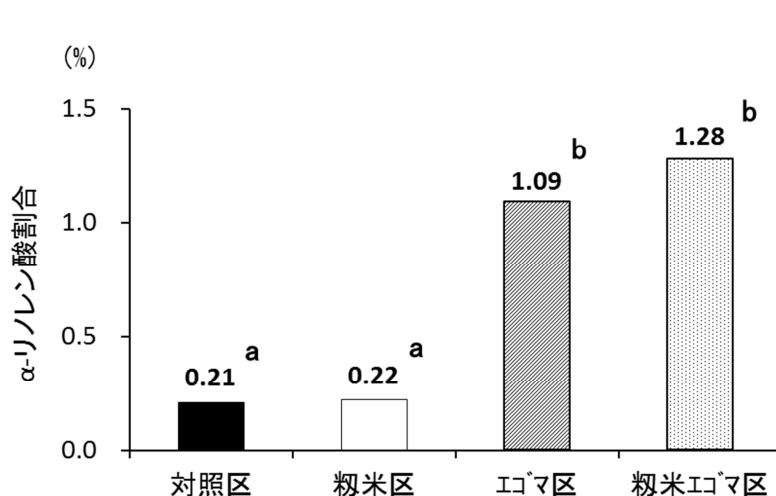


図1 ロース肉のα-リノレン酸割合

a,b:異符号間に有意差あり(P<0.05)

III その他

1 執筆者

京谷隆侍

2 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成 22 年度～26 年度
- (2) 研究課題名 粉碎糊米等飼料用米を活用した肥育豚の飼養管理技術の確立(肥育豚への糊米の給与技術の開発)

3 主な参考文献・資料

- (1) 日本養豚学会誌 49(4), 178.
- (2) 日本養豚学会誌 50(4), 194.
- (3) 日本養豚学会誌 51(4), 191-197.
- (4) 畜産コンサルタント 49(578), 40-43.